

水道のことは水道局まで ☎ 83-4111

水とくらし



地震や土砂災害等により、毎年どこかで大規模な断水が発生しています。令和6年の能登半島地震では、約14万戸が断水し1か月経過しても約6割程度しか断水の解消が出来ませんでした。山陽小野田市でも、平成22年厚狭川豪雨災害で鴨庄浄水場が浸水し約9千戸、最大5日間の断水となりました。

◎給水所の体制整備を行います

これまでの応急給水は、給水タンク車から直

接給水していたためタンク車の数しか給水所を設置できませんでした。そこで市では、より効率的な応急給水活動のため、給水コンテナを購入しました。タンク車が各所の給水コンテナに補水することで給水所数の増加が図れます。併せて、民間企業とも連携し、災害備蓄水の確保にも取り組んでいます。

◎「自助」による災害備蓄水

災害時は何が起こるかわかりません。このため、一人ひとりが自ら取り組む「自助」が重要となります。万が一に備え、ご家庭でも「1人3.5ℓ×3日分」程度の飲料水の備蓄とポリタンク等の準備をお願いします。